令和7年度　事業報告書

自：令和 7年 4月 1日
至：令和 8年 3月31日

公益財団法人川野小児医学奨学財団

令和７年度　事業報告

1. 事業の内容

当財団では、子どもたちが心身ともに健やかに成長していくことを目指しています。そのために、小児医学・医療・保健の向上・発展に役立つことを目的として、小児医学研究者等に対する助成・表彰および小児医学を志す医学生に対する奨学支援、ならびに小児保健に関わる人々に対する啓発活動を行っています。具体的には、以下の 5 つの事業活動を一体として実施しています。

⑴ 小児医学研究、小児医学に関連する学会開催に対する助成および小児医療施設に対する助成金の支給

日本国内の総合大学医学部、医科大学、医学研究機関、医療機関等で小児医学研究に従事する者、小児医学に関連した医学会を開催する者、および医療施設または医療型入所施設に入院中の小児患者の QOL（生活の質）向上のための活動および設備充実に費用を要する埼玉県または千葉県の県内の施設に対する助成金の支給

⑵ 小児医学に従事する研究者の表彰

小児医学、ことに基礎医学、臨床医学、社会医学に関する研究において優れた業績を上げ、学術の進歩に貢献した国内の研究者に対する表彰

⑶ 小児医学を志す医学生に対する奨学金の給付

埼玉県または千葉県の県内の高校を卒業し、総合大学医学部、又は医科大学で小児医学を志す大学生、および小児医学研究に従事している大学院生に対する奨学金の給付

⑷ 小児保健に関わる人々に対する啓発活動

養護教諭または就学前教育・保育施設の看護職従事者が生徒児童園児の健康の保持もしくは増進をより効果的かつ適切にサポートできるように、養護教諭または看護職従事者が開催する研修会や勉強会に対して、小児科医を中心とした専門家を講師として派遣

⑸ 子どもに関わる問題解決に取り組む医師に対する助成金の支給

小児科医を中心とする医師が「子どものこえ」に耳を傾け、認識した問題について、地域と協力して解決をめざす取り組みに対する助成金の支給

2. 事業の実施状況

(1) 小児医学研究、小児医学に関連する学会開催に対する助成および小児医療施設に対する助成金の支給

① 小児医学研究に対する助成（研究助成）

■ 実績

2024 年 9 月に各大学、病院等、約 200 件に申請案内を送付し、2024 年 11 月 14 日の締め切りまでに一般枠 74 件・若手枠 41 件の申請を受け付けました。選考委員による書類審査および選考委員会での審査を経て、第 97 回理事会にて 56 名の研究者に対して総額 84,563 千円の助成を決定し、交付しました。交付先の氏名、所属、交付金額は以下のとおりです。

・一般枠（32 名）

No	氏名（敬称略）	所属機関（採択内定時）	交付額（千円）
1	吉田 健司	京都大学医学部附属病院小児科	3,000
2	加藤 啓輔	茨城県立こども病院小児血液腫瘍科	3,000
3	三浦 慎也	聖マリアンナ医科大学医学部小児科学	2,340
4	宮本 大輔	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科移植・消化器外科学	3,000
5	住友 直文	慶應義塾大学医学部小児科学教室	2,939
6	生田 和史	金沢大学医薬保健研究域・保健学系・病態検査学講座	3,000
7	石塚 一枝	国立成育医療研究センター女性のライフコース疫学研究部	2,400
8	細道 純	東京科学大学大学院医歯学総合研究科咬合機能矯正学分野	2,288
9	西村 範行	神戸大学保健学研究科パブリックヘルス領域	2,400
10	青木 一成	京都大学医生物学研究所幹細胞遺伝学分野	2,400
11	木村志保子	大阪大学大学院医学系研究科感染症・免疫学講座　ウイルス学	2,400
12	川井 正信	大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝研究部門	2,400
13	塩浜 直	千葉大学大学院医学研究院小児病態学	1,500
14	藤原 なほ	順天堂大学医学部小児外科学講座	1,500

15	長谷川大一郎	兵庫県立こども病院血液・腫瘍内科（研究部）	1,500
16	里岡 大樹	滋賀医科大学生命科学講座（生物学）	1,500
17	林 久允	東京大学大学院薬学系研究科	1,500
18	森戸 大介	昭和大学大学院医学研究科生化学分野	1,500
19	菅沼 栄介	埼玉県立小児医療センター感染免疫・アレルギー科	1,250
20	赤星 祥伍	東京都立小児総合医療センター臨床試験科	1,500
21	腰塚 哲朗	岐阜薬科大学感染制御学研究室	1,500
22	佐藤 尚子	理化学研究所生命医科学研究センター空間免疫制御理研ECL 研究ユニット	1,500
23	松﨑 秀夫	福井大学子どものこころの発達研究センター	1,500
24	澤田 博文	三重大学医学部附属病院小児・AYA がんトータルケアセンター	1,500
25	三好 剛一	国立循環器病研究センター研究振興部	1,500
26	石田 裕子	和歌山県立医科大学医学部	1,500
27	赤松 智久	埼玉医科大学総合医療センター小児科	1,500
28	竹内 典子	千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野	1,500
29	設樂 佳彦	東京大学医学部附属病院小児科	1,500
30	林 良憲	日本大学歯学部生理学講座	1,435
31	津下 充	岡山大学学術研究院医歯薬学域小児急性疾患学講座	900
32	花田 俊勝	大分大学医学部細胞生物学講座	1,425
		小計	60,577

・若手枠（24 名）

No	氏名（敬称略）	所属機関（交付内定時）	交付額（千円）
1	津村 悠介	国立がんセンター研究所がん進展研究分野	1,000

2	鎌下 莉緒	千葉大学子どものこころの発達教育センター	1,000
3	粟生 智香	大阪大学連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター動物モデル解析部門	1,000
4	幸 龍三郎	京都薬科大学生化学分野	1,000
5	窪田 博仁	京都大学医学部附属病院小児科	1,000
6	石田 悠志	岡山大学病院小児血液・腫瘍科	1,000
7	佐藤 雅之	旭川医科大学小児科学講座	1,000
8	西村 明紘	神戸大学医学部附属病院内科系講座小児科学分野	1,000
9	高橋 龍樹	群馬大学大学院医学系研究科生体防御学	1,000
10	渡邉 潤	新潟大学脳研究所脳神経外科	1,000
11	小池 宏	名古屋大学医学部附属病院整形外科	1,000
12	酒井 渉	北海道立子ども総合医療療育センター集中治療科	1,000
13	國澤 和生	藤田医科大学大学院医療科学研究科 レギュラトリーサイエンス分野	1,000
14	吉田 彩舟	東邦大学理学部生物分子科学科	1,000
15	山崎 誉斗	三重大学大学院医学系研究科胸部心臓血管外科学	1,000
16	武田 朋也	近畿大学薬学部薬物治療学研究室	1,000
17	青木 真史	済生会横浜市東部病院小児肝臓消化器科	1,000
18	三宅優一郎	順天堂大学小児外科学講座	1,000
19	山本 篤志	東京女子医科大学循環器内科学、画像診断学・核医学分野兼務	1,000
20	打浪 有可	北海道大学北海道大学病院麻酔科	986
21	森下 真由	国立成育医療研究センター成育遺伝研究部	1,000
22	稲毛 由佳	東京慈恵会医科大学小児科	1,000
23	北谷 栞	金沢大学附属病院感染制御部	1,000
24	久保 沙羅	兵庫県立こども病院心臓血管外科	1,000

小計	23,986
合計	84,563

※上記合計より以下を差し引いた金額が、令和7年度の決算書の該当科目の数字となります。

【返金】

令和 7 年度研究助成　若手枠 No.21　森下真由　1,000,000 円（研究継続困難のため）

■　**事業の質向上のための取り組み**

研究助成事業においては、研究者の利用実態に即した助成金の活用を可能とすることが、本事業のアウトカム向上につながると考えています。この観点より、令和 7 年度および令和 6 年度の採択者 107 名を対象にアンケート調査を実施しました。アンケートでは、助成金の使用状況や研究遂行上の課題等について、定量ならびに定性の両面から把握を行いました。その結果を踏まえ、令和 8 年度研究助成のうち一般枠においては、助成金使用期間を 1 事業年度または 2 事業年度から選択可能とする制度を導入しています。これにより、研究の進捗や特性に応じた柔軟な資金活用が可能となり、研究の質の向上および成果創出の促進につながることを期待しています。

② 小児医学に関連する学会開催に対する助成（医学会助成）

■　**実績**

2024 年 8 月 8 日から当財団ホームページにて申請受付を開始し、2024 年 10 月 17 日の締め切りまでに 20 件の申請を受け付けました。選考委員の書類審査を経て理事長の決裁により、以下の医学会 20 件に対し、総額 8,275 千円の助成金を交付しました。

No	学会名	交付額（千円）
1	第 21 回 日韓中小児腎セミナー2025	200
2	第 60 回日本小児腎臓病学会学術集会	525
3	第 34 回国際小児内視鏡外科学会(The 34th Annual Congress of IPEG)	375
4	第 67 回日本小児神経学会学術集会	700
5	第 62 回日本小児外科学会学術集会	525
6	第 39 回 日本小児ストーマ･排泄･創傷管理研究会	200

7	第 36 回日本小児科医会総会フォーラム in KOBE	700
8	第 41 回日本小児臨床アレルギー学会学術大会	525
9	第 61 回日本小児放射線学会学術集会	375
10	第 61 回日本小児循環器学会総会･学術集会	700
11	第 30 回日本小児･思春期糖尿病学会年次学術集会	200
12	第 34 回日本小児泌尿器科学会総会･学術集会	375
13	第 16 回日本子ども虐待医学会学術集会	525
14	第 59 回日本小児外科学会 関東甲信越地方会	200
15	第 43 回日本小児心身医学会学術集会	525
16	日本家族看護学会第 32 回学術集会	300
17	IPOKRaTES Seminar in JAPAN 2025	375
18	第 58 回日本小児内分泌学会学術集会	525
19	第 10 回日本小児超音波研究会学術集会	200
20	第 9 回日本免疫不全･自己炎症学会総会･学術集会	225
	合計	**8,275**

※開催日順

※上記合計より以下を差し引いた金額が､令和 7 年度決算書の該当科目の数字となります。

【返金】

令和 7 年度医学会助成　第 36 回日本小児科医会総会フォーラム in KOBE　700,000 円（参加者多数により運営費余剰発生のため）

③ 小児医療施設に対する支援（小児医療施設支援）

■ 実績

2025 年 8 月に埼玉県内および千葉県内の主な小児医療施設約 200 件に申請案内を送付し、2025 年 10 月 15 日の締め切りまでに、14 件の申請を受け付けました。選考委員の書類審査を経て理事長の決裁により、以下の小児医療施設 14 件に対し、総額

1,897,945 円の助成金を交付しました。

No	施設名	交付額（円）
1	柏市立柏病院	132,355
2	埼玉医科大学病院	124,262
3	埼玉県済生会加須病院	130,900
4	埼玉県立精神医療センター	141,949
5	自治医科大学附属さいたま医療センター	125,093
6	千葉県こども病院	147,555
7	千葉西総合病院	145,047
8	東葛医療福祉センター光陽園	149,849
9	東京女子医科大学附属八千代医療センター	150,000
10	獨協医科大学埼玉医療センター	149,323
11	成田赤十字病院	91,530
12	東千葉メディカルセンター	149,833
13	深谷赤十字病院	129,910
14	船橋市立医療センター	130,339
	合計	**1,897,945**

※施設名五十音順

※上記合計より以下を差し引いた金額が、令和 7 年度決算書の該当科目の数字となります。

【振込額の減額】

令和 7 年度小児医療施設支援　成田赤十字病院 1,259 円（申請物品価格変動のため）

【返金】

令和 7 年度小児医療施設支援　柏市立柏病院　9,834 円（申請物品価格変動のため）

令和 7 年度小児医療施設支援　東千葉メディカルセンター　2,359 円（代替品購入による差額発生のため）

■ **事業の質向上のための取り組み**

小児医療施設支援事業におけるアウトカムは、入院・入所中の小児患者の QOL 向上にあります。この達成のためには、選考において、各申請が小児患者の QOL 向上にどの程度資するかを適切に評価することが重要となります。この観点を踏まえ、各施設が抱える小児患者の QOL に関する課題および、申請により期待される効果について、より具体的かつ十分に記載いただけるよう、申請書の記載項目の見直しを実施しました。結果、選考の質の向上につながっています。

⑵ 小児医学に従事する研究者の表彰（小児医学川野賞）

■ **実績**

2025 年 8 月に小児医学関係の学会、大学医学部、主な子ども病院等、約 200 件にご案内をお送りし、推薦を依頼しました。2025 年 10 月 15 日の締め切りまでに 29 名の推薦がありました。選考委員による書類審査を経て、2025 年 12 月 7 日に理事長および選考委員が出席の上で小児医学川野賞選考委員会を開催し、協議の結果、以下の通り 3 名の受賞者を決定しました。

分野	氏名（敬称略）	所属（受賞時）	賞金（千円）
基礎医学分野	田渕 克彦	信州大学学術研究院医学系分子細胞生理学教室	1,000
研究テーマ	自閉症のシナプス原因説の確立		
臨床医学分野	石田 秀和	大阪大学大学院医学系研究科小児科学	1,000
研究テーマ	小児期発症心筋症の病態解明と臨床予後リスクの層別化に関わる研究		
社会医学分野	藤原 武男	東京科学大学大学院医歯学総合研究科公衆衛生学分野	1,000
研究テーマ	子ども期の逆境体験と健康：ライフコース疫学研究		
		合計	**3,000**

⑶ 小児医学を志す医学生に対する奨学金の給付（奨学金給付）

■ **実績**

2025 年 1 月に埼玉県および千葉県の県内の高校約 110 校、2025 年 2 月に全国の医学部約 70 校に申請案内を送付し、2025 年 5 月 21 日の締め切りまでに、29 名の申請を

受け付けました。理事長による面接および選考委員による書面での審査を経て、第100回理事会にて以下の通り令和7年度の給付者を決定しました。
新規給付につきましては、18名の医学生に対し15,120千円の給付を実施、継続給付につきましては、27名の医学生に対し22,440千円、計45名に対して総額37,560千円の給付を実施しました。

・新規給付（18名）

所属	学年 （令和7年4月時点）	人数	年間給付額 （千円）
愛知医科大学	1	1	840
旭川医科大学	5	1	840
金沢医科大学	4	1	840
杏林大学	2	1	840
群馬大学	4	1	840
慶應義塾大学	3	1	840
埼玉医科大学	2	1	840
埼玉医科大学	1	1	840
順天堂大学	5	1	840
順天堂大学	3	1	840
東海大学	1	1	840
東京医科大学	1	1	840
東邦大学	3	1	840
東北医科薬科大学	1	1	840
獨協医科大学	2	1	840
名古屋大学	4	1	840
弘前大学	3	1	840

福島県立医科大学	2	1	840
	小計	18	15.120

・継続給付（27 名）

所属	学年 （令和 7 年 4 月時点）	人数	年間給付額 （千円）
大分大学	6	2	1,680
北里大学	4	1	840
杏林大学	6	1	840
慶應義塾大学	6	1	840
神戸大学	5	1	840
滋賀医科大学	5	2	1,680
順天堂大学	5	1	840
昭和医科大	5	3	2,520
千葉大学	5	1	840
東京医科大学	5	1	840
東京女子医科大学	6	2	1,680
東京女子医科大学	4	1	840
東北大学	6	1	840
新潟大学	4	1	840
日本大学	4	1	840
日本医科大学	3	1	840
弘前大学	5	1	840
福島県立医科大学	2	1	840

北海道大学	4	1	840
三重大学	4	1	840
山口大学	2	1	840
琉球大学	3	1	600
	小計	**27**	**22,440**
	合計	**45**	**37,560**

※大学名五十音順

⑷ 小児保健に関わる人々に対する啓発活動（ドクターによる出前セミナー）

■ **実績**

2024 年 12 月 2 日から当財団ホームページにて申請受付を開始し、2025 年 2 月 20 日の締め切りまでに、37 件の申請を受け付けました。選考委員による書類審査を経て理事長の決裁より、以下 20 件の研修に対して講師を派遣いたしました。うち 1 件については合同開催をしています。

No.	実施日	テーマ	講師	
		参加者	受講者数	実施形式
1	2025 年 7 月 28 日	発達障害を抱えた子どもへの対応 「発達障害の理解と支援 ～2 つのタイプに分けて考えましょう～」	筑波総合クリニック・筑波大学 名誉教授　宮本信也先生	
		ひたちなか市学校保健会講演会	約 30 名	オンライン
2	2025 年 7 月 30 日	子どもの心に関する問題 「学校で出会う子どもの心の問題 ～理解と学校ができる対応～」	岡山大学学術研究院医歯薬学域 岡山大学病院小児医療センター　小児心身医療科 准教授　岡田あゆみ先生	
		つくばみらい市立学校保健会保健主事・養護教諭研修会	約 25 名	オンライン
3	2025 年 8 月 1 日	低身長 「成長曲線から学ぶ子どもの成長・成熟と成長障害について」	獨協医科大学埼玉医療センター　小児科 准教授　小山さとみ先生	
		ふじみ野市教育研究会養護部主任研修会	約 20 名	対面

4	2025 年 8 月 1 日	子どもの心に関する問題 「不登校を子どもと社会のウェルビーイングの視点でとらえてみる -発達の土台、子ども時代の体験、子どもの力-」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	
		藤枝市教育研究会　学校保健研究部	約 85 名	オンライン
5	2025 年 8 月 5 日	性教育 「こどもたちの成長発達に合わせた切れ目のない包括的性教育指導を考える ～性暴力･差別のない社会実現を三島のこどもたちのために～」	あいち小児保健医療総合センター　総合診療科 森重智先生 ココカラウィメンズクリニック 院長　伊藤加奈子先生	
		三島市養護教諭研修会	約 20 名	オンライン
6	2025 年 8 月 5 日	子どもの心に関する問題 「子どもの権利に基づいたウェルビーイング -子ども時代とともにある私たちにできること-」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	
		【合同開催】 坂井地区養護教諭研究会／ 若狭町小児保健連絡会	約 35 名	オンライン
7	2025 年 8月21日	保健室での救急処置 「学校における事故とその対応」	埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士　安齋勝人先生	
		愛媛県学校保健会養護部会	約 85 名	オンライン
8	2025 年 8月27日	保健室での救急処置 「こんな時どうする？」	医療法人越魂会かわごえファミリークリニック 理事長　淺野祥孝先生	
		浦安市学校保健会　養護教諭研修会	約 25 名	オンライン
9	2025 年 9 月 9 日	保健室での救急処置 「学校における事故とその対応」	埼玉医科大学総合医療センター救急科 救急救命士　安齋勝人先生	
		湯沢雄勝養護教諭･保健主事部会	約 25 名	オンライン
10	2025 年 9月11日	園内・施設内での救急処置 「こどものケガ ～知っておきたい基礎知識～」	順天堂大学医学部附属順天堂医院　救急科 高木淑恵先生	
		江東区公私立看護師研修	約 100 名	対面

11	2025年 9月24日	保健室での救急処置 「こんな時どうする？」	医療法人越魂会かわごえファミリークリニック 理事長　淺野祥孝先生	
		多治見市養護教諭部会研修会	約20名	オンライン
12	2025年 10月23日	園内・施設内での救急処置 「こんな時どうする？」	医療法人越魂会かわごえファミリークリニック 理事長　淺野祥孝先生	
		習志野市立保育所･こども園保健会	約20名	オンライン
13	2025年 11月20日	子どもの心に関する問題 「小児科医が考える不登校対応 ～医療と教育の連携～」	岡山大学学術研究院医歯薬学域 岡山大学病院小児医療センター　小児心身医療科 准教授　岡田あゆみ先生	
		那須地区学校保健大会	約65名	オンライン
14	2025年 12月10日	園内・施設内での救急処置 「小児の救急対応」	埼玉医科大学総合医療センター　小児科教授 小児救命救急センター長 櫻井淑男 先生	
		中原区保育・子育て総合支援センター	約50名	オンライン
15	2025年 12月11日	性教育 「こどもたちの成長発達に合わせた切れ目のない包括的性教育指導を考える　～性暴力・差別のない社会実現を峡南のこどもたちのために～」	あいち小児保健医療総合センター　総合診療科 森重智先生	
		峡南養護教員研究会	約25名	オンライン
16	2025年 12月12日	子どもの心に関する問題 「子どものこころを支えたい ～学校-医療連携を考える～」	さいたま市民医療センター 小児科医長　越野由紀先生	
		秩父地区保健主事・養護教諭合同研修会	約45名	対面
17	2025年 12月13日	発達障害を抱えた子どもへの対応 「発達障害の理解と支援 ～2つのタイプに分けると考えやすいです～」	筑波総合クリニック・筑波大学 名誉教授　宮本信也先生	
		TEAM NEXT（宮崎県教育研修センター指定自主研究グループ）	約20名	オンライン
18	2026年 1月21日	子どもの心に関する問題 「子どもの心の健康とウェルビーイング-子ども時代とともにある私たちにできること-」	子どもの虐待防止センター 山口有紗先生	

		保健主任研修会	約 30 名	対面
19	2026 年 2 月 5 日	保健室での救急処置 「こどもの応急処置 ～知っておきたい基礎知識～」	順天堂大学医学部附属順天堂医院　救急科 高木淑恵先生	
		東初協学校保健部会研修会	約 40 名	対面

※開催日順

■ **事業の質向上のための取り組み**

ドクターによる出前セミナー事業の中期的なアウトカムは、セミナーで得た知識が一過性にとどまらず、受講後も継続的に実務に活用され、子どもたちの心身の健康を守ることに寄与している状態にあります。この把握のため、令和 5 年度および、令和 6 年度のセミナー受講者約 1,385 名を対象にアンケート調査を実施し、152 名より回答を得ました。アンケートでは、受講内容の実務への活用状況に加え、受講前後における行動変化やセミナー内容と現場とのギャップなどについて、主に定性面から把握を行っています。本アンケートの結果については、令和 8 年度にとりまとめを行い、今後の事業改善に活かしていく予定です。

⑸ 子どもに関わる問題解決に取り組む医師に対する助成金の支給（医師・地域連携 子ども支援助成）

■ **実績**

子どもの健康課題が多様化している昨今、職種や役割を超え、包括的に問題に取り組むことが求められています。なかでも小児科医、また子どもにかかわる医師はその職務の性質上、子どもや家族から発せられる貴重な「こえ」に接する機会が多くあります。こうした「こえ」を通じて身体的・心理的・社会的な課題を捉え、その解決に向けて地域の行政や企業、非営利団体などと共に行う活動に対して、令和 7 年度より助成金の交付を開始しました。

2025 年 6 月に申請対象となる施設や団体等、約 80 件に申請案内を送付し、2025 年 7 月 15 日の締め切りまでに 26 件の申請を受け付けました。選考委員による書類審査を経て、2025 年 8 月 25 日に理事長および選考委員が出席の上で医師・地域連携 子ども支援助成選考委員会を開催し、協議の結果、以下の通り 5 件の助成を決定しました。

No.	団体もしくは代表者名（敬称略）	助成額（円）

	活動名 取り組む課題 具体的な活動内容	
1	社会医療法人天神会まどかファミリークリニック 小児科医 丸山 大地 VOICE（Voices Of Insightful Children's Expressions） 在宅医療的ケア児の多くは発話が困難で意思を伝えることが難しい。また、支援現場では時間や人的資源が限られ本人の「声」が受け止めきれていない。成人医療や福祉へ移行する際の「ケアの崖」を乗り越えるには、本人の意思を起点とした支援体制整備が急務である。 在宅医療・福祉・教育の多職種が集まるカンファレンスで医療的ケア児の「声なき声」を共有。子どもの「好き・嫌い・安心できること・不安なこと」等を言語・非言語的表現を含め整理し支援現場で活用できる資料を作る。また、支援者が専門家から「子どもの声」の捉え方を学ぶ機会を設ける。	348,301
2	豊川市 HPV ワクチン接種検討委員会(豊川市医師会内) 『中学生のみんなに知ってほしいがんのはなし』プロジェクト HPV ワクチンの定期接種対象者である小６～高１相当の女子と保護者は、正しい情報へのアクセスが十分でなく接種に不安や迷いを抱えている。正しい知識を丁寧に伝え、命の大切さと、若い世代のがん・子宮頸がんはワクチンで予防できること学んでもらい、接種を促していきたい。 医師会・保健センター・教育委員会・外部講師が連携し、がんサバイバーによる中学生・保護者・教職員向け講座を実施。「がんの原因に感染症がありワクチンで予防できるがんがある」、「HPV ワクチンの有効性と安全性」等を伝える。中学生、教職員や学校医等に学習用冊子も配布。	630,880
3	地方独立行政法人大阪市立総合医療センター 小児脳神経・言語療法内科 医長 温井 めぐみ パープルバスで届ける てんかんのある子どものこえ in 大阪 てんかんには誤解や偏見が根強く、子どもの成長や自己肯定感に影響を与えている。また、てんかんのある子どもや家族は日常生活で「言い出しにくさ」や「社会との断絶」を感じやすい。彼らの「こえ」を社会へ届け「私はてんかんです」と安心して言える社会の実現に取り組みたい。 てんかんのある子どもや家族の「こえ」をデザインしたマグネットシートで車体を装飾したバスで大阪府内を巡回する。途中、協力企業（近鉄百貨店など）の敷地や公共空間に停車し、子どもや家族の	700,000

	「こえ」を届けるパネル展示、交流イベントを行う。ＳＮＳでの動画配信も企画する。	
4	熊本大学大学院　生命科学研究部 小児科学講座 食物アレルギーと向き合う子どもたちの声から始める -ともに歩む支援のかたちを考える 食物アレルギーを持つ子どもたちは、食べられないことへの不安やアレルゲンを含む食物摂取時の恐怖感を抱えている。学校や家庭での支援体制には子どもたちの声が十分に反映されていない。子ども自身の語りから支援を捉え直し、医療・教育・家庭がより良くつながるための支援体制を目指す。 食物アレルギーの子どもへのアンケートから日常生活や食事への思い・経験を聞き、学校現場や支援の状況を把握。子どもの声と合わせ分析・整理し「子どもの声に学ぶ支援のヒント」として資料化。医療者、教育関係者、保護者で共有し、誰もが安心して「食べられる」環境づくりを目指す。	700,000
5	愛知県医療療育総合センター　中央病院 先天性遺伝性疾患の成人移行期支援及び成人期医療の実態調査と支援 先天性遺伝性疾患を持つ子どもは身体的な合併症や知的障害も伴い、小児期・成人期に医療や福祉の支援が必要だが、成人期の健康管理の情報は不足し医療体制も整っていない。「子どものこえ、家族のこえ」から現状を把握し、彼らが成人期も必要な医療福祉を受けられるよう取り組みたい。 当事者や支援者の移行期医療に関するニーズと課題につきアンケートを実施。結果を分析し、医学的妥当性と当事者視点の両面から疾患フォローアップガイドを作成。患者・家族むけに早期移行準備支援を試行的に実施するほか、他の希少疾患の患者会や講演会などで継続して発信する。	620,000
	合計	2,999,181

3. 運営体制の充実を図るための取り組み

(1) インパクト測定・マネジメント「長期アウトカム再定義」

■ **取り組みの背景**

当財団は、理事長である川野幸夫が長男を亡くしたことをきっかけとして、「病に苦しむ子どもを少しでも減らしたい」との思いのもと設立されました。以来、小児医学・医療・保健に携わる専門職の方々への支援を継続しています。

設立から 37 年が経過する中で、社会環境や医療を取り巻く状況は大きく変化しています。とりわけ子どもの健康に関しては、身体的側面にとどまらず、心理的・社会的側面を含めた「ウェルビーイング」への関心が高まっています。こうした背景を踏まえ、当財団では長期的に目指す成果（長期アウトカム）を「子どもが心身ともに健やかに育つこと」と再定義しました。

一方で、「心身ともに健やか」という表現は抽象度が高く、活動の評価や改善、さらには戦略的な意思決定に十分に活用するためには、より具体的な整理が必要であると考えました。

そこで、本アウトカムが示す状態を具体化することを目的として、プロジェクトを立ち上げ、調査、関係者との対話およびワークショップ等を通じた検討を実施しました。

■ 具体的な取り組み

① 調査の実施

子どもや健康が社会の変化の中でどのように捉えられてきたか、またその背景を整理するため、令和 7 年 4 月～9 月にかけて、「子ども観」および「健康観」の変遷に関する調査を実施しました。具体的には、中世から現代に至る欧州および日本を対象とし、学術論文や政府資料等をもとに整理を行いました。

調査結果については報告書として取りまとめるとともに、専門家へのヒアリングを実施し、内容の妥当性および多角的な視点からの検証を行いました。

② ワークショップの実施

調査結果を踏まえ、令和 7 年 12 月～令和 8 年 1 月にワークショップを 3 回実施しました。ワークショップではシナリオプランニングの手法を活用し、10 年後の社会環境を予測し、子どもを取り巻く状況について整理を行いました。

その上で、当該状況を前提として、当財団が目指すべき 10 年後における「心身ともに健やかな子ども」の具体的な状態について検討を行い、最終アウトカムの明確化を図りました。

■ 令和 8 年度以降の予定

長期アウトカムの再定義を出発点として、今後どのようなプロセスで活動の戦略化と検証を進めていくのかは以下のとおりです。

- 長期アウトカムの確定（令和 8 年度）

  本取り組みは事務局職員を中心に進めてきましたが、今後は、理事・監事・評議員および選考委員等の主要な関係者に対してヒアリングを実施し、その結果を踏まえて内容の精緻化および確定を図る予定です。

・　戦略策定（令和 8 年度～令和 9 年度）
長期アウトカムの達成に向けた道筋としての戦略を策定していく予定です。
・　データ測定・事業からの学びの整理・事業見直し（令和 9 年度～令和 10 年）
「自分たちが生み出したい成果を、実際に生み出すことができているのか」という視点から、各事業を定量および定性の観点から振り返ります。
・　検証体制の確立（令和 9 年度年以降）
定期的に自らの活動を検証・見直し、改善を継続していく体制を整えることを目指します。

⑵ 公益法人内部における規範「情報セキュリティ体制の強化」

■　**取り組みの背景**

近年、サイバー攻撃や不正アクセス、標的型メール攻撃等のリスクが一層高まっており、公益法人においても情報資産の適切な管理および保護体制の強化が重要な運営課題となっています。
特に当財団は助成事業を主たる活動とする法人であり、助成金の申請・審査等の過程において、応募者の個人情報を取り扱う機会が多くあります。このため、個人情報の適切な管理および漏えい防止に対する社会的責任は極めて高い状況にあります。
一方で、当財団においては、個人情報保護方針ならびに個人情報管理規程等を整備しているものの、これらの規程に基づく運用状況について十分な検証が行われておらず、職員における理解・実践の度合いにばらつきが生じている可能性があります。
このため、以下の 2 点を主な課題として認識しました。
①　サイバー攻撃等の外部リスクの高まりへの対応
②　内部規程の実効性確保および形骸化の防止
上記の課題を踏まえ、情報セキュリティ体制の強化に向けた取り組みを新たに開始いたしました。

■　**具体的な取り組み**

①　推進体制の整備
情報セキュリティ対策を計画的に推進するため、令和 7 年 1 月に「情報セキュリティ強化プロジェクトチーム」を設置し、課題の整理、施策の企画立案および実施準備を行いました。
②　教育・訓練の導入準備
職員一人ひとりのセキュリティ意識の向上および規程の実効性確保を目的として、令

和７年１月～令和７年３月に、以下の施策の導入を計画しました。

・　オンラインセキュリティ教育サービスの導入

外部のオンライン教育プラットフォームと契約締結を行いました。情報セキュリティに関する基礎教育、フィッシングメールを想定した訓練、ならびに受講状況および訓練結果の分析・可視化を一体的に実施することで、職員のリスク感度を高め、自律的なセキュリティ行動の定着を図ることを目的としています。

・　専門家による講義およびワークショップの計画

外部専門家の選定を行い、情報セキュリティに関する講義および実践的なワークショップの実施に向けた内容のすり合わせを実施しました。情報セキュリティの基本の再確認と規程の理解促進、ならびに業務に即した対応力の向上を目的としています。

■　**令和８年度以降の予定**

令和７年度に企画立案および実施準備をした上記施策については、令和８年度中に全職員への周知および展開を図り、順次実施していく予定です。実施後は、受講状況や訓練結果等に基づく効果検証を行い、その結果を踏まえた見直しを行うことで、継続的な改善につなげていきます。

令和７年度事業報告の附属明細書

令和７年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、記載を省略する。

令和８年５月

公益財団法人川野小児医学奨学財団